

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科	国際教養学科			
科目名称	統計学						授業形態	講義		
科目コード	513100	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験担当教員		○	Active・L	○
担当教員名	呉 海鍾								ICT活用	○
授業概要	本講義では、社会調査に必要なデータの読み解き方、特徴のとらえ方、分析の方法などについて、統計学の基礎的な知識を習得するとともに、社会調査に必要な知識を総合的に身につけることを目的とする。特に、地域の諸情報を有効に活用し、地域社会調査に必要な定量的データ分析法を学ぶことに重点を置く。 本講義は演習を中心に構成されており、ネット上でのデータ探索や行政機関が提供する統計オープンデータの利活用を実践的に学ぶ。さらに、分析結果を適切にアウトプットし、視覚的にわかりやすく可視化するスキルも習得する。特徴として、パソコンを使用した実習要素が多く含まれており、データ分析の技術だけでなく、さまざまな方法論の観点から地域の特性を捉える力を養うことができる。また、本講義は実務経験を有する教員が担当し、実際の社会調査やデータ分析の現場で培った知見を活かした指導を行う。これにより、単なる理論の学習にとどまらず、実社会でのデータ活用や調査設計に役立つ実践的なスキルを身につけることを目指す。									
関連する科目	社会学、情報社会学、地域データ分析、情報処理学Ⅰ、グローバリゼーションと労働									
授業の方法と進め方	授業では、講義と演習を組み合わせ全15回行う。講義では、統計学の基礎を解説し、統計ソフトやプログラミング言語なども紹介する。演習では、学生がPCを使って実際のデータを活用して統計分析や可視化を行う。授業終了後には、課題レポートや小テストの提出を求め、学生の理解度を確認する。また、学生の質問を受け付け、疑問や理解度に応じたサポートを行うことで、統計学を深く理解し、自ら分析の力を身に着ける機会を提供する。さらに、統計学関連文献や参考書を活用して、学生の自主的な学習を支援する。最終的には、学期末の課題レポートや発表を通じて、学生の学習状況を総合的に評価する。									
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、目的、到達目標、評価方法等の説明									
第2回	統計とは何か： ・統計の役割について学び、統計が社会科学やビジネスにおいてどのように活用されるかを理解する。 ・その結果をミニレポートにまとめる。									
第3回	基本統計量①： ・代表値と散布度の計算方法を解説し、基本統計量の理論を学ぶ。									
第4回	基本統計量②：演習実施（課題・データ分析アプローチ）： ・実際のデータを用いて課題を解くことで、代表値と散布度の計算方法を実践的に学ぶ。 ・PCを活用して計算結果をユニバーサルパスポートやGoogle Classroomにミニレポート課題として提出する。									
第5回	統計データ分析とツールを用いた社会調査の手法： ・社会調査における統計データ分析の手法やツールについて学び、実際の社会調査の手法を理解する。 ・その結果をミニレポートにまとめる。									
第6回	相関分析①分析手法の解説（定量データの関連性を分析する）： ・定量データの関連性を分析する相関分析の理論を習得し、その内容をミニレポートにまとめる。									
第7回	相関分析②課題実施（課題・データ分析アプローチ）： ・実際のデータを用いて相関分析を実施し、関連性の解釈方法を学ぶ。 ・PCを活用して計算結果をユニバーサルパスポートやGoogle Classroomにミニレポート課題として提出する。									
第8回	統計データ入手法と利活用方法： ・政府統計データや他のデータの入手方法と、それらのデータの活用方法について学ぶ。 ・PCを活用して実際のデータを入手し、それをミニレポート課題として提出する。									
第9回	クロス集計・分析①：分析手法の解説（カテゴリデータの関連性を分析する）： ・カテゴリデータの関連性を分析するクロス集計の理論を学び、その内容をミニレポートにまとめる。									
第10回	クロス集計・分析②：演習実施（課題・データ分析アプローチ）： ・実際のデータを用いてクロス集計を実施し、関連性の解釈方法を学ぶ。 ・PCを活用して計算結果をユニバーサルパスポートやGoogle Classroomにミニレポート課題として提出する。									
第11回	分散分析：分析手法の解説（変数間の相違を比較する）： ・変数間の相違を比較する分散分析の理論を学び、その内容をミニレポートにまとめる									
第12回	回帰分析：分析手法の解説（単回帰、重回帰分析）： ・単回帰と重回帰分析の理論を学び、変数間の関係性を分析する方法を理解する。									

第13回	政府統計データの分析結果と可視化（グループワーク）： ・グループワークを通じて政府統計データの分析結果をまとめ、可視化方法を学ぶ。
第14回	最終課題発表会①（政府統計データの分析結果）： ・グループごとに政府統計データの分析結果を発表し、フィードバックを受ける。
第15回	最終課題発表会②（政府統計データの分析結果）： ・最終課題の発表を完了し、グループごとの成果を振り返る。
授業の達成目標	実際にパソコンを使って政府統計の総合窓口（e-Stat）などからデータをダウンロードし、分析ツールを使った計算方法で地域社会に必要な分析能力と可視化能力を養うことを目標とする。 ①統計学の基礎的な用語、データの見方、特徴のとらえ方、分析方法に関する基礎的な知識を身につける。 ②分析ツールを使用して、統計分析結果を図やグラフに可視化して視覚的に説明できる。 ③社会調査を実践し、レポートとして取り纏めることができる。 《到達目標：学士力》では、知識・理解の面では政府統計の総合窓口からのデータ取得と分析方法の習得を通じて、問題解決に向けた理解を深める。一方、汎用的技能面では、統計学の基礎的な知識を身につけ、データの見方や分析方法に関する技術とスキルを磨くことで、データを解釈し、適切な分析手法を選択する能力を養う。
学修成果との関連	1.自ら考える能力を有する。
授業時間外学習【予習】	各回の授業内容に関連するテキストやオンラインリソースを読解し、統計学やデータ分析の基礎知識を習得してから授業に参加することを推奨する。（1 時間程度）
授業時間外学【復習】	毎回1時間程度の復習を行い、統計ツール（Excelなど）を活用して演習を行う。これにより、次回の授業に備えて前回の内容を十分に理解することを目指す。
課題に対するフィードバック	課題などのフィードバックに関しては、授業毎に適宜行う。
評価方法・基準	授業への参加度、小テスト・ミニレポート、グループワーク等（50%）、②期末課題レポートと発表（50%）で算出する。
テキスト	本授業は、テキストを使用せず、適宜関係資料の配布、スライド、ビデオなどを使用しながら進めていく。
参考書	適宜授業で紹介する。
備考	期末レポートは形式を統一するためMicrosoftのWordを使用して作成して提出することを義務付ける。その為、手書き等のMicrosoftのWord以外の形式での提出は対象外とする。